

□「代田の街づくり学習会」(全4回)を開催しました！

代田地域で街づくりを考えるきっかけとして、平成 25 年 11 月から下記の日程で「代田の街づくり学習会」(全 4 回)を開催しました。

1 月に発行した前号にて第 1 回学習会の内容をお知らせしたのに引き続き、本号では第 2 回・第 3 回学習会のようすをご紹介します。(2～4 頁をご覧ください。)



太子堂 2・3 丁目地区 現地見学会 平成 26 年 1 月 25 日

「代田の街づくり学習会」 各回のテーマ		開催日時	会 場
1	代田のまちづくりの現況と課題 ※両日とも同じ内容です。	11 月 6 日(水) 午後 6～8 時	代田小学校
		11 月 16 日(土) 午前 10 時～正午	新代田まちづくりセンター
2	防災街づくりの考え方と方法	12 月 4 日(水) 午後 6～8 時	代田小学校
3	街づくりの 実際例を学ぶ [事前ガイダンス] [太子堂 2・3 丁目 地区 現地見学会]	1 月 22 日(水) 午後 6～8 時	代田小学校
		1 月 25 日(土) 午後 1 時 30 分～4 時	太子堂出張所前 集合
4	代田の街づくりの目標と進め方	2 月 19 日(水) 午後 6～8 時	代田小学校

「代田の街づくり学習会」の各回の資料等は、北沢総合支所街づくり課にて閲覧できるとともに、世田谷区公式ホームページの下記アドレスからご覧になれます。



<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/102/120/345/d00129071.html>

トップページ>くらしのガイド>住まい・街づくり・交通>街づくり
>北沢総合支所の街づくり>代田の街づくり学習会

□街づくりアンケートにご協力ありがとうございました

代田地域のより多くの方から、街づくりについてお考えやご意見を伺うため、代田地域の街づくりに関するアンケート調査を実施しました。

平成 23 年度に同様のアンケート調査を実施した代田 2・5 丁目を除く、代田 1・3・4・6 丁目の全世帯に前号の発行に合わせて調査票(返信ハガキ付き)をお配りして、2 月 15 日までに約 700 通の回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

お寄せいただいたご意見は、今後の代田地域の街づくりの検討に反映させていきたいと考えております。なお、アンケート結果の概要は、次号にてお知らせする予定です。

【お問い合わせ先】

世田谷区北沢総合支所街づくり課

〒155-8666 世田谷区北沢 2-8-18 北沢タウンホール 6 階
電話：03-5478-8031 FAX：03-5478-8019

第2回 代田の街づくり学習会のようすをご紹介します

平成 25 年 12 月 4 日(水) 午後 6 時～8 時 代田小学校図書室

はじめに、都市計画を専門に研究されてきた羽根木在住の渡辺俊一氏(東京理科大学嘱託教授)より「まちづくりと住民の役割」と題して講演いただきました。(講演の内容は 3 頁の講演レジュメをご覧ください)。

次に、「防災街づくりの考え方と方法」をテーマに吉川仁氏(防災&都市づくり計画室代表)より講義をいただいた後、代田の防災街づくりについて、ご参加いただいたみなさまで意見交換を行いました。



第2回学習会のようす 平成 25 年 12 月 4 日

防災街づくりの考え方と方法 —講義から—

● 1995 阪神・淡路大震災の街づくりへの教訓

最初に現代の都市型震災の事例として、神戸市教育委員会が作成した平成 7 年 1 月に起きた阪神・淡路大震災の DVD ビデオを見ていただいた後、震災による建物倒壊や道路の閉塞状況、そして延焼が止められなく拡大した火災被害等の状況を報告するとともに、被災直後の救助・救難活動から避難所の運営や仮設住宅の生活、そしてその後の復興まちづくりまでの混乱した展開を振り返りました。

そして、これらの震災被害と復興の歩みから得られた教訓から、国や東京都がこれまでに進めてきた震災対策と、各地の先進地区で取り組んでいるさまざまな防災街づくりの取り組み(住まいづくり・道づくり・拠点づくり・ひろばづくり・緑づくり・水の確保・防災設備づくり・街のルールづくり・人づくり・防災訓練・防災組織づくり等)について、ご紹介を行いました。

● 自助・公助・共助 → 地域の防災力を高めるには共助が必要です

大規模地震の初動時には、都市全体に震災の被害が広がるため、消防や行政での消火や救助活動【公助】には限界があり、地域での自前の初期消火や救助活動が重要になります。

1995 年阪神・淡路大震災時の聞き取り調査の結果でも、人命救助をされた方の 64% がご近所の方に救助されました。(その他一家族 4%・親戚 4%、消防 14%、自衛官 14%) 災害発生時に自分と家族の身をどのように守るかを考え【自助】、近隣とのつきあいを大切にするとともに、近隣のみなさまと協働して、災害時には防災活動を行い助け合う仕組みを準備しておくこと【共助】が、地域の防災力を高めるために有効で、必要となります。

● ふだんのまちを災害の視点で見よう

「防災まちづくりの第一歩は、ふだんのまちを災害の視点で見直し、もしここで地震が起きたらどうなるのかを考えることから始める、防災街づくりは誰にでもできる。」と講義を終えました。

前号のお詫びと訂正

平成 26 年 1 月に発行した「世田谷代田駅周辺まちづくりニュース No.9」(前号)の 2 頁でご紹介した「代田地域の成り立ちに関わる主な出来事」の中で、小田急線開通(昭和 2 年)当時世田谷中原駅として開設され、その後世田谷代田駅に改称したのは昭和 12 年と掲載しましたが、正しくは昭和 21 年の誤りでした。謹んで、お詫び申しあげるとともに、ご指摘を頂いた多数の方に感謝申しあげます。

まちづくりと住民の役割＝代田まちづくりの成功の条件

東京理科大学嘱託教授 渡辺俊一

1. 代田の現状をどう見るか？ → 時代状況が一方向的に進行し、住民が対応に追われている

- (1) 事実：小田急地下化、小学校統廃合計画など。しのびよる震災の危険
- (2) 区政：住民が立ち上がる前に、行政(＋専門家)が手を差し出している格好だ
- (3) 課題：まちは時代と共に変わるが、住民側は主体的に対応できるか？
 - ① 「地域主権のまちづくり」が問われているのだ
 - ② 「地域主権」とは？ → 地域住民がまちの将来形成へ主体的に参加すること
 - ③ その成功のためには？ → 組織化、学習、行政との連携(まちづくり条例の活用)

2. 代田まちづくりのポイントは？ → 「大・小」のバランスが大事だ

- (1) 「大」とは、「代田地区」全体への関心・理解・働きかけだ
 - ① この地区の将来に関する見通しを共有する(構想の与件)
例えば、線路跡地・統廃合の情報、大震災時の環七・羽根木公園のイメージ等
 - ② 将来いかにあるべきかの関心・議論・イメージ→究極的には「全体構想」へ
 - ③ 手段としては「代田のシンボル」探しが必要→現代の都市神話化へ
ハードとしての世田谷代田駅前、小田急線跡地など(富士山は?)
ソフトとしてのイベント(祭り、イベント等)
 - ④ こうして「代田地区」全体としてのまとめ、誇り、アイデンティティの形成へ
- (2) 「小」とは、具体的な小規模プロジェクト・改善策を積み上げてゆく
○住民提案(駅広デザイン、代田小タンボ等)で参加の利益を実感してもらう
- (3) 「大・小」のバランスのとり方→「花も実もあるまちづくり」へ
 - ① 具体の事例・提案を「全体構想」の枠組で考える→全体・個別の柔軟な関係へ
 - ② 常にそれを議論し・見守り・育ててゆく仕組みが必要だ→「まちづくり協議会」へ

3. まちづくり成功の条件は？ → まちづくりは「人づくり」だ

- (1) まちづくりの担い手は、住民・行政・専門家。特に住民の「実力」が問われている
- (2) 住民側「われわれが主体と言われても、どう進めていいかわからない」→3段階
 - ① 「わからない」→とにかく学ぶしかない
 - ② 「まとまらない」→まとめ方、説得の論理を
 - ③ 「エゴになる」→私利私欲から出発しても、いかに公益と調整するか
- (3) 「楽しくなければ「まちづくり」じゃない」「楽しいだけでも「まちづくり」じゃない」
- (4) では何が必要か？→学習が必要です
- (5) どんな能力へ向けて？
 - ① 知識よりも智慧が求められます
 - ② 長期的・全体的に見る・考える・論ずる能力→行政・専門家と対等に議論する
 - ③ 地域資源(ヒト、組織、情報、智慧、資金など)を掘り起こし、育て、活用する能力
 - ④ 組織化へむけたリーダーシップ能力→成功のカギだ(地元組織化へ)

4. おわりに一言「なぜ、まちづくりをやるのか？」

- (1) 代田という「地域」の再発見しよう！
- (2) 時代状況に流されてきた個人が(生活空間に関して)主体的に時代状況を変えることだ
 - ① 新しい「公共」の形成であり、時代の最先端を行く生き方だ
 - ② まちづくりとは、NPO 原理による都市計画の改革運動だ！

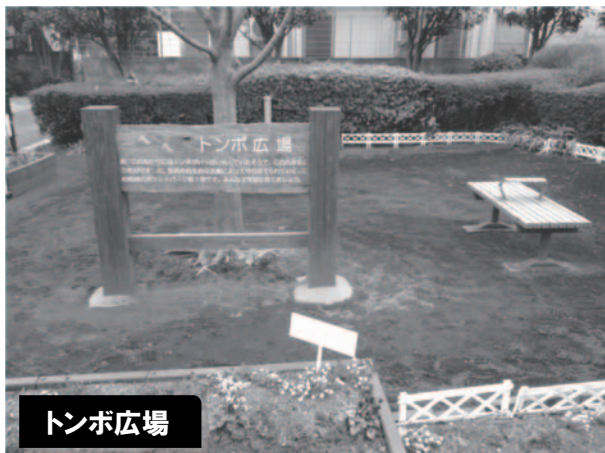
第3回 代田の街づくり学習会のようすをご紹介します

【事前ガイダンス】 平成 26 年 1 月 22 日(水)午後 6 時～8 時 代田小学校図書室

【太子堂 2・3 丁目地区 現地見学会】 平成 26 年 1 月 25 日(水)午後 1 時 30 分～4 時 30 分

1 月 22 日には、代田小学校で、街づくりに関わる制度や事例について大戸徹氏(大戸まちづくり研究所代表)より説明があり、その後、街づくりの進め方などについて意見交換しました。

1 月 25 日には、区内の代表的な街づくり地区である太子堂 2・3 丁目地区を見学し、街づくりに長く関わってこられた「太子堂 2・3 丁目地区まちづくり協議会」の梅津政之輔氏よりお話をうかがい、意見交換をしました。



トンポ広場

太子堂 2・3 丁目地区には、多くのユニークな小広場が設けられています。トンポ広場は、太子堂のまちづくりではじめて、住民の提案に基づいて区と協働してつくられた広場で、その後も住民による自主管理が行われています。〔昭和 59 年(1984 年)開設〕

烏山川緑道は、まちづくり協議会と緑道沿いの住民との話し合いを重ね、世田谷区と協力して実現した、せせらぎのある緑道です。



三太通り

三宿と太子堂の町境の道路は、消防車が進入できる幅員 6m の道路にするため、地区計画が定められ、建て替えに合わせて少しずつ道路が拡幅されています。



烏山川緑道

□太子堂 2・3 丁目地区の街づくり□

太子堂 2・3 丁目地区は、昭和 50 年代半ばより世田谷区と地区住民が話し合いながら、防災を主体としたまちづくりに取り組んできた、全国的にも防災街づくりの代表例とされる地区です。

道路が狭く、木造建物が密集するなど、当時、世田谷区内で防災的に危険な地区のひとつとされ、区としても重点的に防災街づくりが必要と位置づけました。そうした中、住民参加の街づくりの検討・実践組織として昭和 57 年に公募による「太子堂 2・3 丁目地区まちづくり協議会」が発足しました。

まちづくり協議会は、街づくりのルールづくりに取り組むとともに、多くの住民に関心を促すために「太子堂きつねまつり」を催したり、防災や交流の拠点となる小公園の計画・管理運営、烏山川緑道の再生など実践にも取り組むなど、発足以来 30 年にわたって活動しています。

太子堂 2・3 丁目地区

